賀正

④面　渋谷デッキ整備進む
⑤面　池袋保健所ビル売却
⑥⑦面　賑わう新宿東口
⑧面　ホテル商戦は過熱
⑨〜⑩面　―新春座談会―
新宿・渋谷・豊島区長語る
⑪面　副都心めざす大学
⑬⑭面　大久保コリアン街

ホームページ　http://www.shinjuku-shinbun.co.jp
週刊
新宿新聞
THE SHINJUKU SHINBUN
1月1日
2019年（火曜日）
（第2064号）
発行所
株式会社新宿区新聞社
編集・発行人　喜田　勇
新宿区西新宿1−7−25
ワコーレ新宿第2ビル
社章
購読料6ヵ月4,000円、毎月5の日発行、創刊65周年　☎3369−6195　FAX3369−0759　（昭和32年12月4日第3種郵便物認可）

2019年　元旦

謹賀新年

明治以降は『領土拡張』、戦後は『自由貿易』立国

第3の立国は「外国人労働者 受入」

近代における〝最初の立国〟は明治維新以降の「海外領土拡張」、第二は戦後の「自由貿易輸出」、そして第三回目は今回の「外国人労働者受け入れ」ではないのか？

◆

本紙の入居しているビルと隣接するビルのハンバーガーショップの若い店員はバングラデシュから、もう一人の若い女性はモンゴルから来たという。キビキビと働いている若い男性はバングラデシュ人の店長だ。「日本の建築を勉強に来た」と言い、黒川紀章や前川國男の名を挙げた。

東京などの大都市では外国人は、もう身近な存在だ。この店は1年前から、片言の日本語を話せる外国人店長と店員に代わっている。

▼14業種34万5千人受入

その外国人労働者だが、政府は、本年4月より外国人労働者の受け入れ枠を拡大する。農業、介護など14業種を対象に、5年間で最大34万5千人を受け入れるという。

すでに国内では百28万人の外国人労働者が働いており、この5年間で60万人増えた。例えば全国に5万5千店舗あるコンビニ店。人手不足から留学生を雇用している。

日本語学校や専門学校に通う留学生は、週28時間まで資格外労働が認められている。外国人建設労働者は「特定活動」の在留資格で、既に約4千人が働いているという。

技能実習生は昨年10月末時点で25万8千人に上った。外国人労働者の受け入れは、既に始まっているのだ。

▼五輪で訪日客4千万人

日本という国は、インバウンドでカネを落としてくれる訪日観光客の誘致には熱心だが、日本の人口減少による働き手不足を補ってくれる外国人労働者には冷たい。

単純労働者に対しては家族の帯同を認めず、大都市圏に集中させないなど、受け入れ条件が厳しい。反面、高度プロフェッショナルの技術者は優遇される。菅官房長官は、「この先、訪日客は4千万人受け入れるが、海外からの労働者の受入れは制約する」と明確だ。

▼国際金融都市で競争

その一方で東京都は国際金融都市構想を掲げ、ロンドンの金融街シティをめざしている。海外の高度人材向けの医療、生活サポート体制を構築するため、民間の高級マンション建設を誘導、外国人家族やメイドさんまで受け入れるという。まさに至れり尽くせりだ。

一言でいえば、熟練労働者は家族とも受け入れるが、単純労働者は単身でしか受け入れないということだ。

単純労働者は10年間居住しても日本永住の道を手に入れることはできない。まして家族を呼び寄せる状況は期待できない。これを〝外国人の待遇格差〟と言えないか？

▼労働力の〝国際競争〟

この「格差」は海外国との「給与・待遇」の格差としても現れる。

情報化時代の今、例えば給与、待遇面を見た場合、お隣の韓国の方がいいとなれば、日本で働くことを選ばないだろう。労働力を奪い合う〝国際競争〟も、すでに始まっているのだ。

▼日本人に劣らぬ勤勉さ

我が国のこうした受け入れの事情を考えると、暗澹たる思いになる。

ハンバーガーショップの若い外国人は勤勉だ。日本の経営者たちは、この外国人労働力を、違和感なく受け入れることができるだろう。

そして、入国した外国人が、日本のことを勉強して日本に愛着を持ってくれるなら、もっともっと〝受け入れ枠〟を増やせばいい。

だが一方で、島国・日本の社会は閉鎖的だ。外国人は、その生活になじめるだろうか？

▼彼らにも生活がある

「ドイツは、トルコなど多くの国から労働力を受け入れ、その数年後には送り返すつもりだった。だが実際には4百万人がドイツに残った。彼らにも生活があったからだ。人々を単なる働く機械のように扱うことはできない」。独フンボルト大学のウォルフガング教授の言葉だ。氏は「ドイツの過ちに学べ」と日本に警告している。

訪日観光客と外国人労働者

〝訪日客〟迎える玄関口に

20年開業　**高輪ゲートウェイ**

JR山手線・品川〜田町駅間に20年春開業する新駅は「高輪ゲートウェイ」に決定。駅周辺開発は24年度に完成。品川駅ではリニア中央新幹線が27年に開業、品川〜名古屋間は最速40分で結ばれる。訪日客を迎える羽田空港からの玄関口の整備は進む。

新春を迎えて

新庁舎が15日に開庁

渋谷区長　**長谷部　健**

あけましておめでとうございます。

東京二〇二〇オリンピック・パラリンピック大会まであと1年、渋谷区では一層の機運醸成を図るとともに、大会後のレガシーの創出に向けて取り組みを加速させてまいります。

また、区民サービスの大幅な向上を実現する新庁舎が、いよいよ1月15日より開庁となります。

本年も、皆さまと共に、「成熟した国際都市・渋谷」の実現を目指してまいりますので、何卒宜しくお願い申し上げます。

五輪の気運、盛上げる

新宿区長　**吉住　健一**

あけましておめでとうございます。今年は開催目前の東京2020オリンピック・パラリンピックに向けた取り組みを本格的に行っていきます。記念イベントの開催やボランティア育成のほか、地域の活動を支援するための基金を創設し、オール新宿で大会の気運を盛り上げていきます。

また、健康寿命延伸や子育て支援、教育環境の整備に取り組むとともに、建物の耐震化など災害に強いまちづくりを進めます。本年も、やすらぎと賑わいのまち新宿の発展に取り組んでまいります。

東アジア文化都市（開幕）

豊島区長　**高野　之夫**

豊島区86年の歴史に、足跡を深く刻む「東アジア文化都市2019豊島」がいよいよ開幕します。また、ハレザ池袋や、4つの公園整備、真っ赤な電気バスをはじめ、トキワ荘復元、大塚駅周辺整備など各地域で魅力づくりに取り組んでいます。ハードとソフトを融合させた文化戦略を基軸に、持続発展都市として大変革を遂げていきます。そして、この大きなうねりを未来につなげていけるよう、オールとしまで挑んでまいります。